

風をうけて

心のありよう

◆友情、出会い、別れ、そして再会

以前、「命」をテーマにした絵本『葉っぱのフレディ』を取りあげたことがあります。今回は『マルセランとルネ』についてです。何気なく聞いていたラジオで朗読ろうどくがあり、思わず引き込まれた作品です。自分の息子達が小さかった頃、いろんな絵本を読んで聞かせたりもしましたが、私自身、この作品と出会うのは初めてでした。友情をテーマにしており、子ども向けと侮あなどってはいけなと改めて絵本の威力いりよくを感じました。谷川俊太郎だからこそ日本語による翻訳ほんやくが生きているのでしよう。



ジャン・ジャック サンベ (著)
谷川 俊太郎 (翻訳)



コンプレックスを持って孤独こどくな思いを抱いだいていた2人の男の子が出会います。やがてそれぞれの道を進むために別れるけれど、大人になってから偶然ぐうぜんに再会し、そこからさらに強い絆きずなで結ばれていく。

私自身の子ども時代のことを思い出しつつ、人との関わり方や、他者を理解するとはどういうことなのか、大人になった今も考えています。コンプレックスは誰のなかにも大小様々なものがあって、他人は気にとめていないことであっても、当人にはとても重大なことで、それが心の負担になっていることはよくあります。それをバネにして強くなる人もいれば、いつも心のどこかに隠かくしている人もいます。コンプレックスとはそういうものなのでしょうね。でも、いろいろなことを乗り越えて前に進むためには自分の心のありようが大切になってきます。

◆^{たにんごと}他人事を^{じぶんごと}自分事として^{とら}捉え返す^{かえ}

以前に書いたことですが、あなたが見ている（感じている）他人の言動は、あなた自身を映し出している「鏡」かもしれません。他人の^{けってん}欠点はよく見えるものです。「ああはなりたくない」「あの人はここがダメだ」ということばかり考えていると、いつもそこばかり目につき、あなた自身の心は他人の^{ふるま}振る舞いが気になって^{しかた}仕方がない状態になります。他人を否定することに心が^{うば}奪われていると、人づき合いが^{だんだん}段々と苦しくなってきます。気が付いたら自分を理解してくれる人は誰もいない……



自分は本当に正しいのでしょうか？間違っていないのでしょうか？ 自分自身の中にダメな要素は存在しないのでしょうか？ 自分のなかに存在する^{たんじょ}短所・^{けってん}欠点を^{じゅうよう}受容できる人は、常に相手を否定したり^{こうげき}攻撃・^{はいじよ}排除することはしません。マルセランとルネの出会いの出発点はそこにあります。相手の欠点を理解し受容すること、相手を^{そんちよう}尊重することから^{しんらい}信頼関係が^{めぼ}芽生えています。



他者を見^{みくだ}下したりバカにする気持ちになることは、私の心のなかにも存在します。でも、そういう自分を^{きょくたん}極端に^{けんお}嫌悪したり^は恥じる必要はありません。それよりも、「人の心は弱いものだ」と認めることです。他人の言動を^{きび}厳しくチェックして^{ひはん}批判してばかりしていると、そういう状況を^よどんどん引き寄せていつもイライラし、「どうして私の^{まわ}周りにはこんな人ばかりなんだろ」という気持ちが^{あふ}溢れてしまい、時に生きづらさを感じるのです。

「ああ、私にもそういうところがあるな……」と、ちょっと思うだけでいいのです。つまり、「あの人は私と同じ、そして私はあの人と同じ」と受容することです。他者を理解するための出発点に立てたとき、人は変わるのです。^{たぶん}多文化^{かきょうせい}共生社会をめざしている大通高校です。そんなことにも心を配りながら、ありたい自分、なりたい自分を^{もさく}模索していきましょう。

